

患者氏名 ○		様 病名：		主治医： ○		印 担当看護師：			
月日		1月0日		1月1日		1月2日			
項目		カテーテル治療前日		カテーテル治療前		カテーテル治療後		カテーテル治療後1日目	
達成目標		狭心症などの胸部症状がない 心臓カテーテル検査の準備ができる 心臓カテーテル検査について理解できる		合併症の症状・所見がない		→			
治療・薬剤 (内服)		指示されたお薬はお飲み下さい 糖尿病治療薬を服薬している方は お申し出下さい 		普段のお薬、検査前の安定剤・表面麻酔 のテープは（ ）時に内服・貼付 します		普段内服しているお薬は継続して内服します		→	
		眠れない時は看護師にお申し出下さい		6時から点滴を開始します ( )時に抗生剤の点滴をします		点滴は医師の指示まで継続します 病状に応じて抗凝固薬や冠血管拡張薬の点滴治療を 継続します。		午前中に点滴は終了します 点滴の針は看護師が抜きます	
活動・安静度		制限はありません シャワー浴・清拭などを行います		検査の案内があるまで、 病棟内でお過ごし下さい		病棟内の歩行は可能です 出血を予防するために、針を刺した腕は安静に しましょう。箸を持つ程度の動きは大丈夫です		看護師がお身体を清拭します	
検査・食事		心電図検査を行います 21時以降は食べられません お水やお茶は飲めます 特別な栄養管理の必要性 有・無		食事はできません 飲水制限はありません		心電図を装着します 病棟に戻ったら心電図検査を行います カテーテル治療30分後から食事が食べれます		退院までモニター心電図をつけて観察します 病院食以外はお控え下さい	
排泄		制限はありません		病状に応じ、 尿道カテーテル挿入を行います。		必要がなくなり次第、 尿道カテーテルは抜去します。		制限はありません	
患者様および 御家族への説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>検査について医師の説明があります</li> <li>心臓カテーテル検査同意書への記入が済みましたら看護師にお渡し下さい</li> <li>薬剤師より内服薬の確認を行います</li> <li>検査の流れについて看護師よりお話しがあります</li> <li>爪の長い方は切り、マニキュア・ジェルネイル・スカルブネイルも落して下さい</li> <li>寝巻きの借用を希望される方は寝衣申込書に記入し看護師にお渡し下さい</li> <li>患者様の識別のためにIDバンドを装着します</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>洗面・歯磨きはできます</li> <li>義歯、補聴器・指輪・時計・眼鏡・コンタクトレンズなど外せる物は外します</li> <li>貴重品の管理は御家族でお願いします</li> <li>車いすで検査室に向かいます</li> </ul> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>血管挿入部からの出血を避けるため、手を曲げない、つかないなどの局部安静が必要になります。</li> <li>医師より検査結果についてお話しがあります</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>退院後の生活について看護師よりお話しがあります</li> <li>栄養士からお話しがあります</li> </ul> 	

【退院後の生活について】

患者氏名	〇
項目	退院日
達成目標	・退院後の生活が理解出来る
治療・薬剤 (内服)	・普段内服しているお薬は継続して内服します
	・退院時にお薬が処方される場合があります
活動・安静度	・院内自由です ・シャワー浴できます
検査・食事	・心電図は退院前に看護師が外します ・朝食を召し上がってから退院となります
排泄	・制限はありません
患者様および ご家族への 説明	・退院は午前10時頃です ・IDバンドは退院時に看護師が外します ・入院時に看護師に預けた物を受け取ってからお 帰りの下さい ・退院後のご相談・問い合わせは、内科外来で承 ります 

- ・病気の再発リスクとなるため、喫煙されていた方は禁煙しましょう
- ・退院後に胸の不快感を感じたら早めに受診しましょう
- ・内服薬は自己判断で中止・変更しないようにしましょう。  
また、お薬の用量・用法を守り忘れずに飲みましょう
- ・運動制限などは医師の指示に従って下さい
- ・入浴・シャワーは退院後から可能ですが、はじめは御家族の見守りを  
お勧めします。また、冬期は脱衣所・浴室を暖めてから入りましょう
- ・退院後は塩分・カロリーの取り過ぎに注意しましょう。  
また、動物性脂質（肉の脂身、バター、ラードなど）の  
取り過ぎにも注意しましょう
- ・排便時に強くいきむことで心臓に負担がかかります。適度な水分摂取、  
ストレッチなど適度な運動をお勧めします。  
便秘でお困りの方は主治医に相談しましょう



注1 場合によっては内容を変更することがあります。

薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフ、MSWが、必要に応じて、対応いたします。